

氏名	平 岡 佐規子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 号
学位授与の日付	平成16年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Enhanced expression of decay-accelerating factor, a complement regulatory protein, in the specialized in testinal metaplasia in Barrett's esophagus (Barrett食道の特殊円柱上皮における補体制御因子 decay-accelerating factorの発現亢進)
論文審査委員	教授 谷本 光音 教授 田中 紀章 教授 保田 立二

学位論文内容の要旨

Barrett 食道（粘膜）の腸上皮化生粘膜（特殊円柱上皮）は食道腺癌の危険因子である。一方、胃の腸上皮化生では補体制御因子 Decay-accelerating factor (DAF) の発現が亢進している。そこで Barrett 粘膜における DAF の発現の変化を調べ、DAF が特殊円柱上皮のマーカーになりうるか検討した。内視鏡的に Barrett 粘膜と診断した 45 例、53 生検組織を用い、補体制御因子 DAF、CD46、CD59 の発現を免疫組織学的に検討した。DAF は特殊円柱上皮陰性粘膜ではほとんど発現を認めず、特殊円柱上皮では全例強い発現を認めた ($p < 0.0001$)。CD59、CD46 では明らかな差は認めなかった。また、laser capture microdissection を用いた RT-PCR 法では、特殊円柱上皮で有意に高率に DAF mRNA の発現が認められた ($p = 0.022$)。以上から DAF は、Barrett 腺癌の発生母地である特殊円柱上皮を同定するのに有用な分子マーカーとなる可能性が示された。

論文審査結果の要旨

本研究は、食道における腸上皮化生粘膜（特殊円柱上皮）における Decay-accelerating factor (DAF) の発現変化を、多数例の Barrett 食道粘膜材料で検討している。その結果、補体制御因子 DAF の発現は、Barrett 粘膜に特異的に高いことが認められた。これに反して CD46、CD59 などの発現には一定の傾向はなかった。また RT-PCR 法により DAF mRNA の有意に高い発現が特殊円柱上皮のみに認められた。DAF が Barrett 腺癌の発生母地である特殊円柱上皮を同定する有効な方法であることに関して新たな知見を得た価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。